



支えられた 20 年・

私の成長とこれからの抱負

伊藤 浩樹

この度、晴れて二十歳を迎えることができ、とても嬉しく思います。

私は出生時から両耳に難聴を抱えて 20 年間生活してきました。幼少期から両親には補聴器の購入や通院など金銭的、時間的にも負担をかけて来たのですが、それでも私の特性について精一杯サポートしてくれて本当に感謝でしかありません。両親のその姿から、親とは子供のために自らができることの精一杯を注ぎ込む姿勢を学びました。ありがとうございます。

今、私は大学でまちおこしについて学んでいます。まちおこしを勉強するきっかけはコロナ禍でした。高校入学と同時にコロナ禍になり学校も分散登校、部活動も中止、そんな中、高校がある自治体がやっていた地域活性化活動に参加したことがきっかけです。そこから、震災後の福島と自分について考えたり、玉川村特産品のさるなしジュースを東北各地や大阪で販売したり、郡山市と地域企業と学生

の三位一体で商品開発したりと様々なことを高校時代に経験した結果、今の大学に縁あって入学しました。

大学入学後も、「コロナで失った青春を取り戻す」をコンセプトに全国から学生 200 人を集めて体育祭を実施したり、福島のある企業と福島の学生を集めてこれからの地域と進路に繋がるイベントを実施したりしてきました。その経験を通して、私はもっと福島の魅力が広まればと感じ、私の人生ビジョンとして「福島を盛り上げる」を掲げ、現在活動しています。

中学校を卒業した時は今の自分の姿は全く想像できませんでしたが、人生は不確実性の出来事の 8 割で決定するということを身をもって学び、これからの人生も様々なことを学びながら誇りある生き方ができるよう精進していく所存です。